

水稻品種「天のつぶ」の品質向上のためには 斑点米カメムシ類への対策が重要である

福島県農業総合センター 生産環境部作物保護科

1 部門名

水稻－水稻－病害虫防除

2 担当者

岸 正広

3 要旨

水稻新品種「天のつぶ」の栽培においては、斑点米の発生が多くなる傾向があるとされている。割れ粳率の高い品種はカスミカメムシ類による斑点米被害を受けやすい(松木ら,2006)ことから、2012～2013年にかけて「天のつぶ」について割れ粳および無防除条件下での斑点米の発生状況を調べた。

天のつぶの割れ粳率はコシヒカリ、ひとめぼれよりも高かった(表1、表2)。斑点米率も天のつぶはコシヒカリよりも高かった(表3)。なお、ジノテフラン剤の茎葉散布により乳熟期とその14日後に2回防除したところ、割れ粳に由来すると考えられる鉤合部の斑点米を抑えることができた(表4)。

これらのことから、天のつぶの栽培において斑点米による落等を避けるためには、畦畔および水田内の雑草管理の徹底や農薬による適期防除等、斑点米カメムシ類への対策を適切に行うことが望ましいと考えられた。

表1 各品種の割れ粳発生状況(2012年)

品 種	調査粒数	割れ粒数	割れ粒率(%)
天のつぶ	7,274	2,440	33.5
コシヒカリ	7,629	115	1.5
ひとめぼれ	7,334	498	6.8
あきたこまち	7,628	2,616	34.3

注:センター内で栽培した試料を調べた。

表2 各品種の割れ粳発生状況(2013年)

品 種	調査粒数	割れ粒数	割れ粒率(%)
天のつぶ	1,463	544	37.2
コシヒカリ	1,817	86	4.7
【参考】ひとめぼれ	1,865	209	11.2

注1:センター内で栽培した試料を調べた。

注2:ひとめぼれのデータは他の2品種と施肥管理が異なることから【参考】とした。

表3 各品種の斑点米発生状況(2013年)

区 名	調査粒数	斑点米数	斑点米率(%)
天のつぶ	43,135	47	0.11
コシヒカリ	43,325	14	0.03

注1:センター内で栽培した試料を調べた。

注2:斑点米カメムシ類は少発生であった。

表4 薬剤防除の時期と斑点米発生状況(2013年、天のつぶ)

散 布 時 期	調査粒数	斑点米数	斑点米率(%)	
			全 体 (うち鉤合部)	
乳 熟 期	41,230	30	0.07	0.03
乳熟期+14日後	43,621	15	0.04	0.01
無 処 理	43,135	47	0.11	0.05

注1:センター内で試験を行った。

注2:散布薬剤はすべてジノテフラン粉剤とした。

注3:斑点米カメムシ類は少発生であった。

4 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 平成23年度～26年度
- (2) 研究課題名 地域の病害虫発生リスクに応じた主要病害虫の総合防除
- (3) 参考となる成果の区分 (指導参考)

5 主な参考文献・資料

平成18年度及び平成23年度センター試験成績概要